

週日の説教

金 大烈 神父 2010年2月25日(木)

《求めなさい・探しなさい・門をたたきなさい》

もし私たちに、今日の福音(マタイ7:7-12)の内容を実践しながら生きようとする心があれば、たぶん“成熟した信仰者”と言われるのではないかと思います。

この福音を読んで思い出した3つの物語を紹介させていただきます。

まず、一つ目です。ある修道士が、祈ろうと思って修道院の聖堂に入りました。すると一番前の席で別の修道士が祈っていました。自分も座って黙想を始めようと思いました。しかし、先に来ていたその修道士のいびきが耳に入ってきます。あまりにもうるさいので腹が立ちます。そこで、居眠りをしている修道士に聞こえるように、わざと聖櫃せいひつに向かって叫びます。「主よ、あなたの御前で寝ているこの不届きな兄弟を赦したまえ!」と。するとその祈りが終わったとたんに、聖櫃から答えが聞こえました。「少し静かにしてもらえないか。おまえは私のことも起こしているよ。」と。

この話を通して、私たちに「何かを求める心」、「探そうとする心」、「門をたたこうとする心」が生じるためには、必要なものがあるのではないかと思います。それは、信頼感です。イエス様は、「御父は怖い存在ではなくて、あなた方がアツバ(父)と呼んでもよい存在です。」とおっしゃいました。イエス様は、御父と私たちに父子の関係を作ってくださいました。父親の心とは、自分の子どもが罪以外ならば何をして、かわいく見えるものです。ですから、神様がどういう方かイメージしようとするときには、「私が少し失敗しても、転んでしまっても、一番心配してくださる存在。そして、いつもかわいく思っていらっしゃる存在。」として信頼感を持つべきではないでしょうか。そうでなくて、怖いイメージの神様、そしてその前にいる私たちだったら、絶対にまことの出会いはできないことを意識してください。

二番目の話です。「花をあげる人が幸せか、花をもらう人が幸せか」で、二人の人が論争になりました。お互いに、「あげる人が幸せになる。」「いや、もらう人のほうがもっと幸せになる。」と言い合い、結論が出ません。その話を聞いた別の人が、「このことについてよく分かる人がいる。」と言い、二人を花屋さんに連れて行きました。そして花屋さんに「あなたから見て、花をあげる人のほうが幸せに見えますか、それとももらう人のほうが幸せに見えますか。」と聞いてみました。すると迷わずに「やはり売る人が一番幸せでしょう。」という答えがありました。

たぶん、どちらの立場でも幸せなのだと思います。しかし、その中心になっているのは『花』です。結局、私たちが求めなければならないもの、憎しみを感じた時に探さなければならないものは、『キリスト』という花ではないでしょうか。「あげるほうが幸せだ。」「いや、もらうほうがもっと幸せだ。」「いいえ、売るのが一番幸せだ。」と言い合って、つまらないことでエネルギーを使うより、中心は『花』であること、『キリスト』であることを意識すれば、何が一番大切なのかわかるのではないかと思います。

した。

三つ目の物語です。よくものを忘れる病気を『健忘症』と言いますね。健忘症の人がタクシーに乗りました。数分たってから、「私はどこに行こうとしていたのだろうか。」と気になりました。いくら思いだそうとしても記憶に残っていません。そこで、タクシーの運転手さんに「すみませんが、私はどこに行きたいと言いましたか。」と聞きました。するとその運転手さんはびっくりして「えっ。あなたはいつ、この車に乗られたのでしょうか。」と答えました。お互いに健忘症の二人の会話でした。

さあ、私たちも同じような可能性を持っているのではないのでしょうか。今日の福音の「求めなさい」という言葉をわかっています。「探しなさい」もわかっています。そして「叩きなさい」もよくわかっています。しかし現実に関わったことにぶつかると、この言葉を忘れてしまいます。何回も聞いた話なのに、自分の力、誰かの助け、いろいろなことで何とかしようとして、その中には、先ほど申し上げた『花・キリスト』がないのです。すぐに忘れてしまうのです。

皆様、3つの面白い話でしたが、今日の福音を理解するのに役に立ったと思います。

今日の第一朗読(エステル[ギ]0・12、14 16、23 25)の最後の箇所「あなたはすべてをご存じです。」と書いてあります。この言葉もいつも覚えておきましょう。胸に刻みましょう。

そして福音の「求めなさい」、「探しなさい」、「門をたたきなさい」という言葉も覚えておきましょう。最後におっしゃっている「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。」この言葉も心に刻み私たちの一つの基準として考えなければならないと思います。

イエス様が紹介してくださった、「神様、御父、アッパ」という方は、お父さんとして一番ふさわしい心、完璧な心を持っていらっしゃる方であることをかたく信じましょう。

ありがとうございました。